

(トップページ: <http://members3.jcom.home.ne.jp/3632asdm/>)

(中東 VIP 劇場シリーズ: <http://members3.jcom.home.ne.jp/3632asdm/VIPtheatre.html>)

(カタール: <http://members3.jcom.home.ne.jp/3632asdm/Qatar.html>)

マイライブラリー:0241

2012.10.4

前田 高行

中東 VIP 劇場番外篇:親の財力で世界のパワフルウーマンに仲間入りしたカタール王女

米国の経済誌 Forbes は毎年「世界のパワフル・ウーマン 100 人 (The 100 Most Powerful Women)」と題するリストを公表しているが、これは世界中の政財界や芸能界、NGO などで活躍し話題となった女性 100 人を選ぶものである。今年はその一人にカタールのアル・マヤサ王女が選ばれた。

1 位から 3 位に選ばれたのはメルケル西独首相、クリントン米国务長官、ルセフ・ブラジル大統領であり、その他 10 位以内にはマイクロソフトのビルゲイツ夫人、ソニア・ガンジー印首相、オバマ大統領夫人等が顔を並べている。彼女たちの肩書は自身が国家の最高首脳(メルケル、ルセフ等)かファーストレディ(オバマ大統領夫人)のような政治分野の女性、或いは世界的な大富豪や CEO と言ったケースが多い。中にはレディ・ガガのような芸能人もいる。男性に伍して活躍する女性と言うことで 100 人の顔ぶれは当然のことながら欧米の女性が殆どである。

女性の活躍の場が限られているアラブ世界の女性が極めて少ないのはある意味で仕方の無いことだろう。そのような中で選ばれたアラブ女性はわずか3人。UAE のルブナ外国貿易相、クウェイト・ナショナル銀行のアル・バハール CEO、そして冒頭に触れたカタールのアル・マヤサ王女である。3人の年齢はルブナ女史とアル・バハール女史がそれぞれ53歳、57歳、アル・マヤサ王女は29歳である。アラブの王族でしかも若いアル・マヤサ王女が世界のパワフル・ウーマンに選ばれたのは極めて異例であることが解ろう。因みに王女の社会的な肩書は「カタール美術博物館機構理事長」というものである。

アル・マヤサ王女はハマド・カタール首長の娘として1983年に生まれた。母親は第二王妃のモーザ妃、兄のタミームは皇太子である。彼女は米国カリフォルニアの大学で政治学の BA を取得した後、さらにパリのソルボンヌ大学(University of Paris 1 Pantheon-Sorbonne)に留学している。湾岸諸国で外国に留学する女性はまだまだ少ない。カタールの王女では彼女が最初である。アル・マヤサが留学することが出来たのも母親のモーザ王妃が教育熱心で開明的だったためと考えられる。

帰国した王女は留学で得た知識を活かしてカタール外交の一翼を担おうとした節が見受けられる。母親が夫のハマド国王とともに派手な王室外交を繰り広げるのを目にしたためであろう。しかし政治の世界は男の世界であり、ましてイスラムの国では女性の出る幕はない。

そのような訳でアル・マヤサも活動の場を慈善・文化事業に移した。こうして彼女は「カタール美術博物館機構」の理事長に納まったのである。展示品の購入、博物館の運営費用などは全てカタール政府から出ている。カタール政府と言っても結局アル・マヤサが父親のハマド首長から引き出したものであり、彼女はカタール美術博物館のオーナーでありパトロンである。

カタール美術博物館は2008年に鳴り物入りでオープンした。オープニング・セレモニーにはシリアのアサド大統領など近隣諸国の元首が多数出席、招待客の中にはどういう訳かハリウッドスターのロバート・デ・ニーロもいたそうである。式典でアル・マヤサは堂々とスピーチした。但しカタールの国内に展示に耐えうる美術品や遺跡発掘品などあるはずがない。カタールにあるのは天然ガスだけであり、それによって得たマネーだけである。こうしてアル・マヤサ王女は金にあかせて世界の美術品、骨とう品を買い漁った。世界の美術界でカタールの名が上がったことは言うまでもない。

Forbes 誌によればアル・マヤサを選んだ理由は彼女が世界の美術界において最もパワフルな女性だったことにある。彼女は昨年、セザンヌの絵画を 2.5 億ドルで購入しており、これは美術史上過去最高の価格であった。因みに昨年のカタールの LNG 収入は 360 億ドル、一日当たりに直すとおよそ 1 億ドルの収入である。セザンヌの絵などわずか LNG 2.5 日分の売上に過ぎない。アル・マヤサ王女はこれからも世界の美術界を潤していくであろう。

しかしわざわざカタールの美術館まで足を運ぶ外国人観光客がどれほどいるだろうか。イスラム教徒は偶像崇拝を否定し肖像画すら忌避する。近隣湾岸諸国からの観光客は少なからう。2022 年にサッカー・ワールドカップがカタールで開催されるが、それまで西欧からの旅行者が訪れるのを待つのであろうか。ただサッカー・ファンがセザンヌの絵を喜んで見に行くかどうか、筆者には判断しかねるのである。

(完)

本稿に関するコメント、ご意見をお聞かせください。

前田 高行 〒183-0027 東京都府中市本町 2-31-13-601
Tel/Fax; 042-360-1284, 携帯; 090-9157-3642
E-mail; maeda1@jcom.home.ne.jp